

# ボツリヌス療法のご紹介

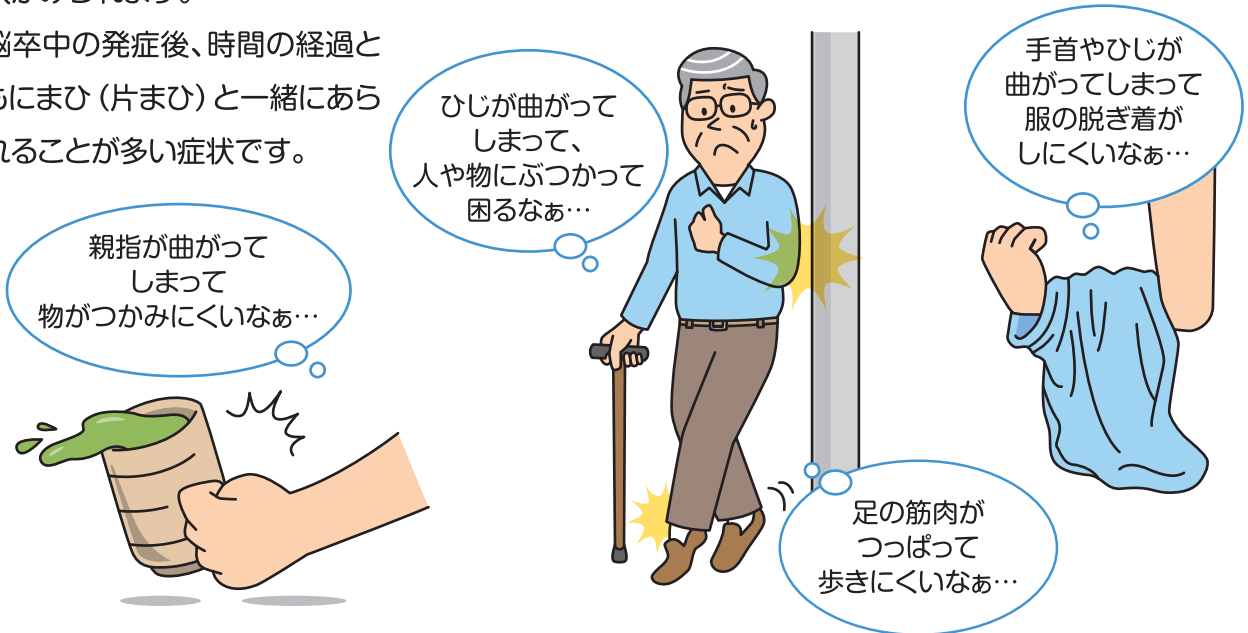
## 痙縮とは

脳卒中の後遺症でよくみられる障害の一つに「痙縮（けいしゅく）」という症状があります。

痙縮（けいしゅく）とは筋肉が緊張しすぎて、手足が動かしにくかったり勝手に動いてしまう状態のことです。

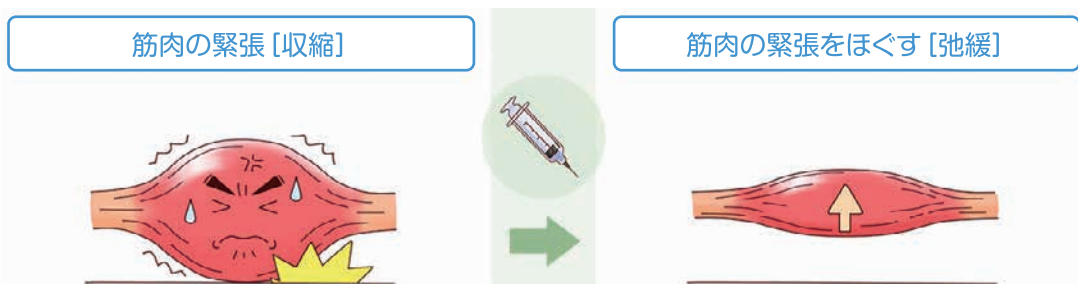
手指が握ったままとなり開きにくい、ひじが曲がる、足先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどの症状がみられます。

脳卒中の発症後、時間の経過とともにまひ（片まひ）と一緒にあらわれることが多い症状です。



## ボツリヌス療法とは

筋肉を緊張させている神経の働きを抑える、ボツリヌストキシンというお薬を注射します。ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出す天然のタンパク質（ボツリヌストキシン）を有効成分とするお薬を筋肉内に注射する治療法です。

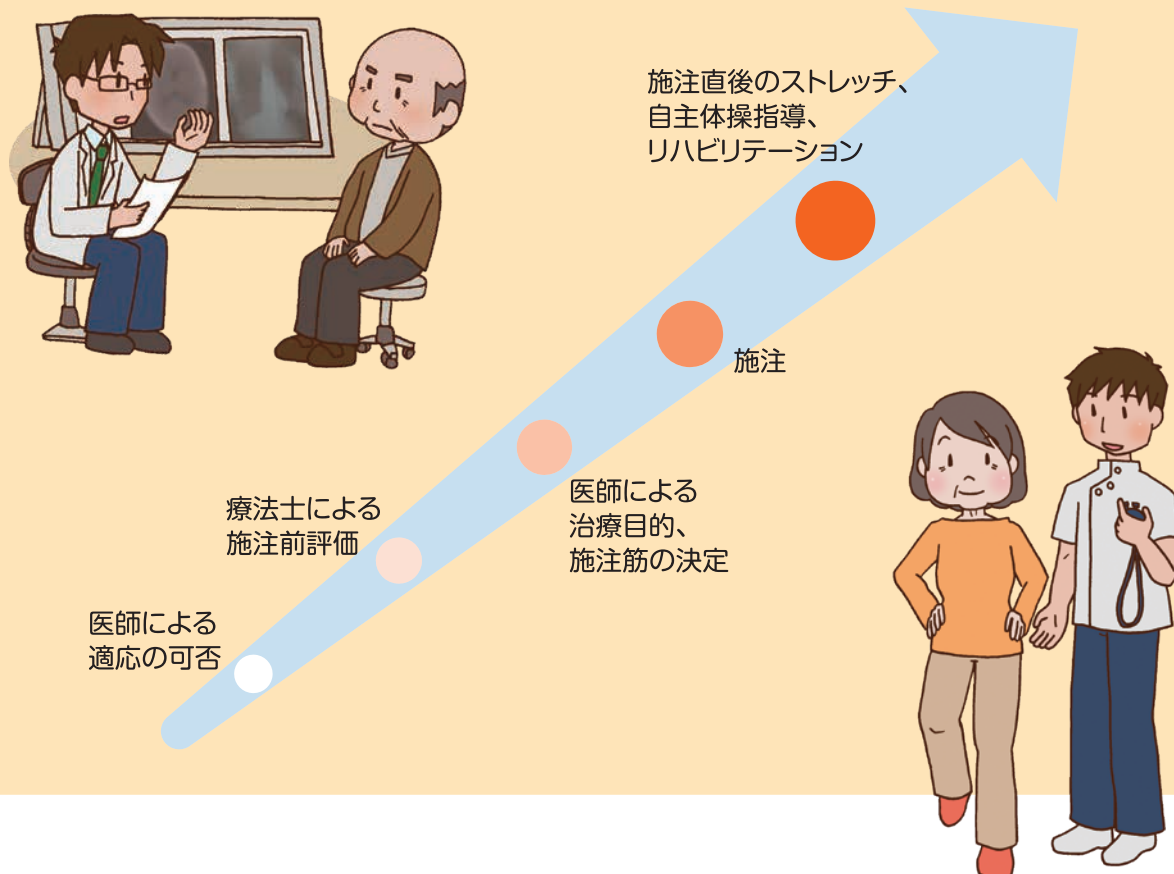


## 「手足の筋肉の緊張」によって…

- 肩やひじが固まったように動かず、着替えや入浴に苦勞する
- ひじが曲がったまま伸びず、人や物にぶつかってしまう
- 手首やひじが曲がったまま伸びず、ものをつかみにくい
- 手の指が曲がったまま伸びず、手洗いや爪切りがしにくい
- つま先立って、かかとがつかず、歩くときのバランスが悪い
- 足の指が曲がったまま伸びず、体重がかかって痛みが生じる

グラクソスミスクライン株式会社 痙縮相談シートより

## ボツリヌス療法の流れ



▶ 以上のような症状があり、お困りの方はご相談ください



社会医療法人平成醫塾

苦小牧東病院

地域連携室

TEL.0144-55-8811